

< 結果の概要 >

1 出生

(1) 出生数は10,162人で、前年より6人増加し、2年連続1万人台を維持した。

出生率(人口千対)は8.5で前年と同じであった。

(2) 出生数を母の年齢(5歳階級)別にみると、20歳代前半で23人、20歳代後半で61人、30歳代前半で21人減少し、30歳代後半で90人、40歳代前半で30人の増加となっている。

母の年齢階級別出生数

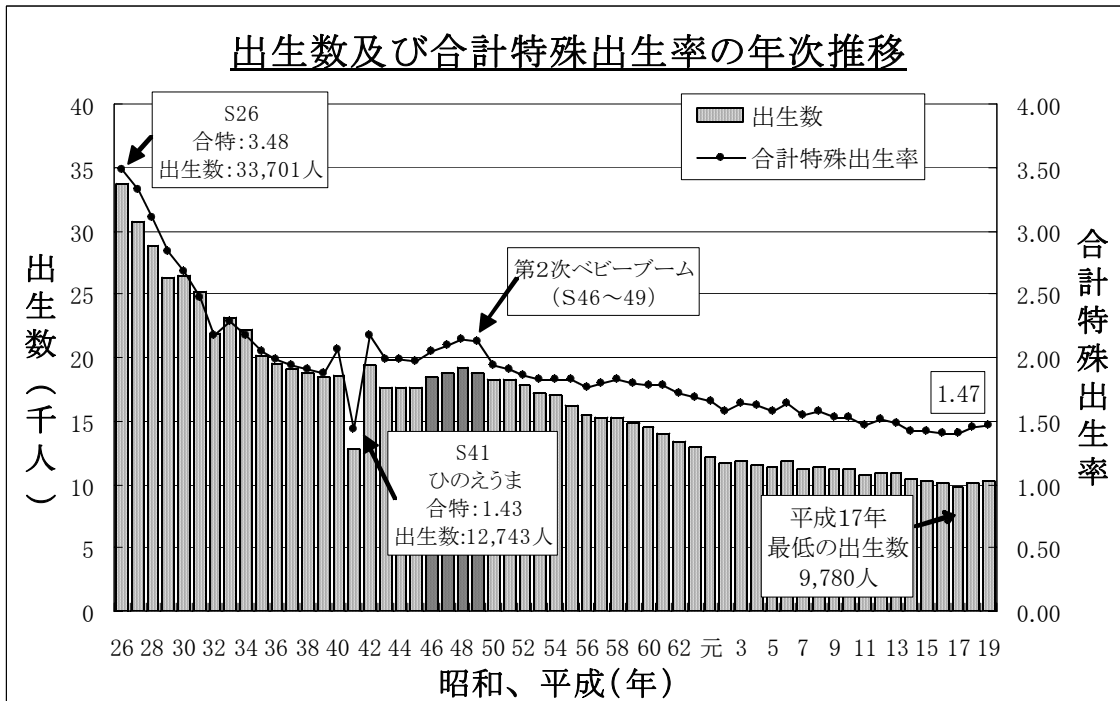
年齢階級(歳)	出生数(人)	
	18年	19年
～14	0	0
15～19	161	153
20～24	1,373	1,350
25～29	3,352	3,291
30～34	3,661	3,640
35～39	1,431	1,521
40～44	172	202
45～49	6	5
計	10,156	10,162

2 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、1.47で前年の1.45を0.02上回った。

これは2年連続の上昇である。

なお、全国の合計特殊出生率も前年の1.32より0.02上回り、1.34であった。

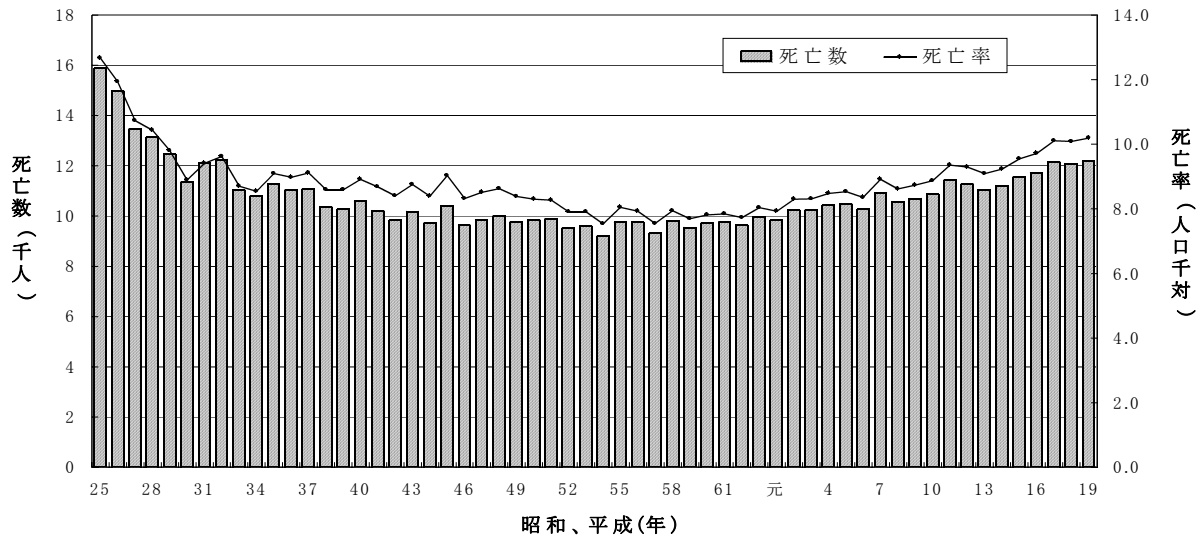


3 死 亡

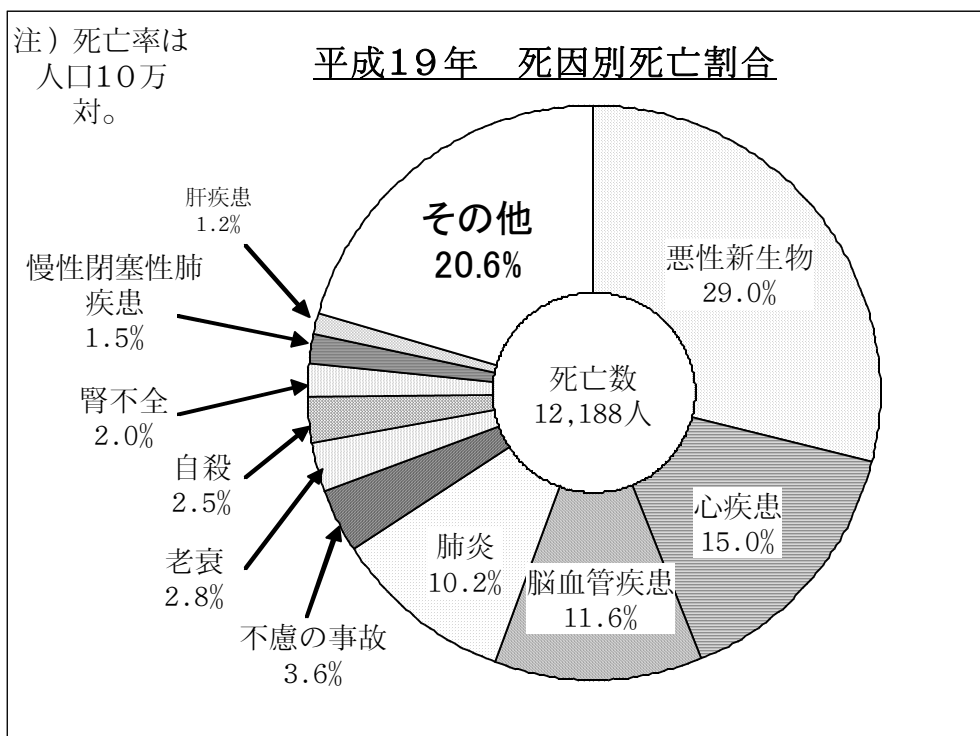
(1) 死亡数は、12,188人で前年より96人増加した。

死亡率（人口千人対）は、10.2で前年の10.1より0.1増加し、その年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。

死亡数、死亡率の年次推移



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物(29.0%)、第2位は心疾患(15.0%)、第3位は脳血管疾患(11.6%)で、この3大死因が、死亡数の約6割(55.6%)を占めている。

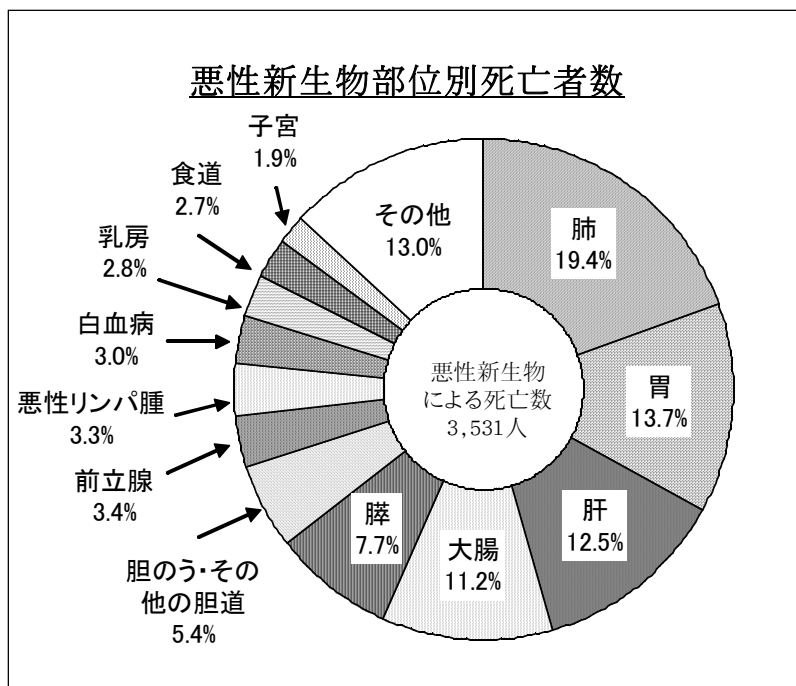


また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは、脳血管疾患（73人）心疾患（24人）、腎不全（22人）などであり、増加したのは、悪性新生物（79人）などである。

死 因	平 成 19 年				平 成 18 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因		12,188	1019.1	100.0		12,092	1008.5	96	10.6
悪性新生物	1	3,531	295.2	29.0	1	3,452	287.9	79	7.3
心 疾 患	2	1,834	153.3	15.0	2	1,858	155.0	△ 24	△ 1.7
脳 血 管 疾 患	3	1,418	118.3	11.6	3	1,491	124.4	△ 73	△ 6.1
肺 炎	4	1,244	104.0	10.2	4	1,244	103.8	0	0.2
不慮の事故	5	438	36.6	3.6	5	434	36.2	4	0.4
老 衰	6	339	28.3	2.8	6	360	30.0	△ 21	△ 1.7
自 殺	7	302	25.3	2.5	7	299	24.9	3	0.4
腎 不 全	8	247	20.7	2.0	8	269	22.4	△ 22	△ 1.7
慢性閉塞性肺疾患	9	185	15.5	1.5	9	194	16.2	△ 9	△ 0.7
肝 疾 患	10	148	12.4	1.2	10	155	12.9	△ 7	△ 0.5

注)死亡率は人口10万対。

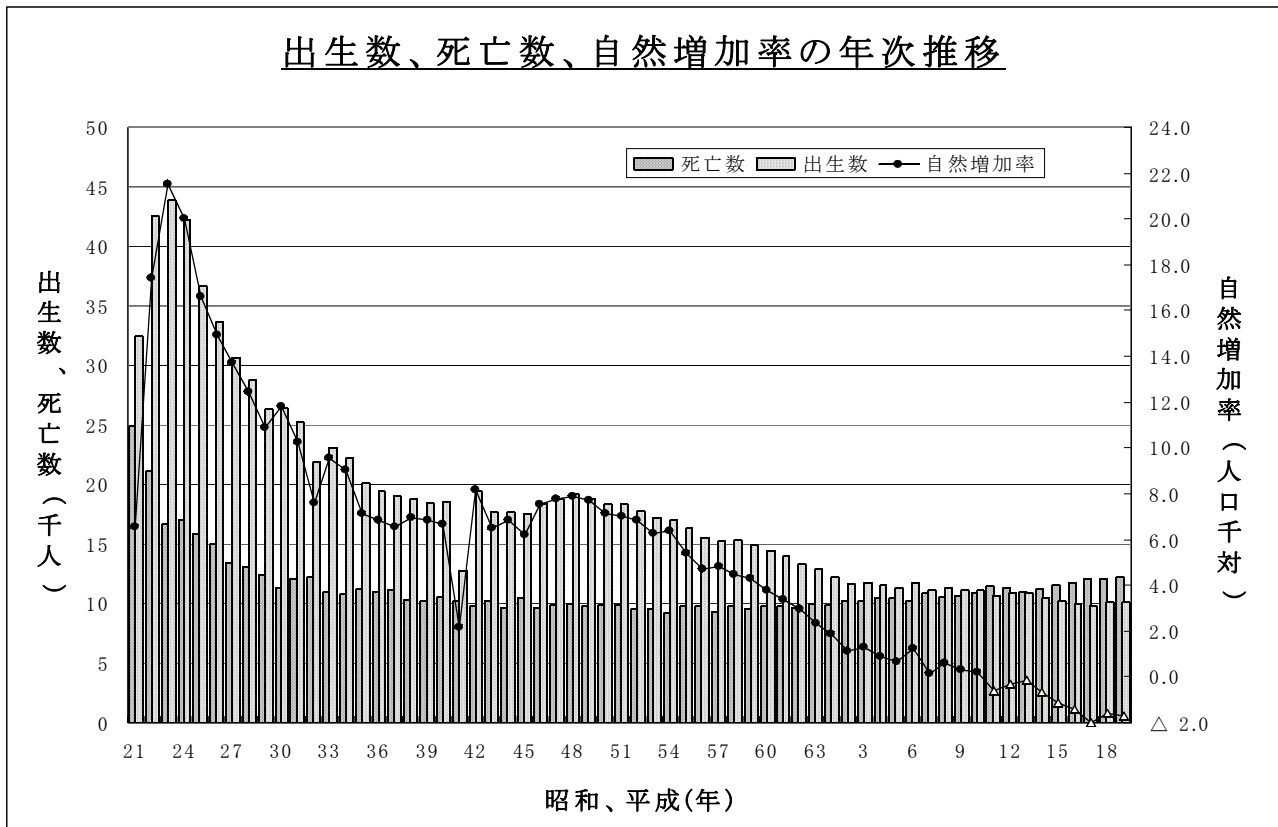
なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（19.4%）を筆頭に、胃がん（13.7%）、肝がん（12.5%）、大腸がん（11.2%）と続き、この4つで悪性新生物の56.8%を占める。



4 自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス2,026人で平成11年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっている。

自然増加率はマイナス1.7と前年のマイナス1.6より減少幅が拡大した。



5 乳児死亡

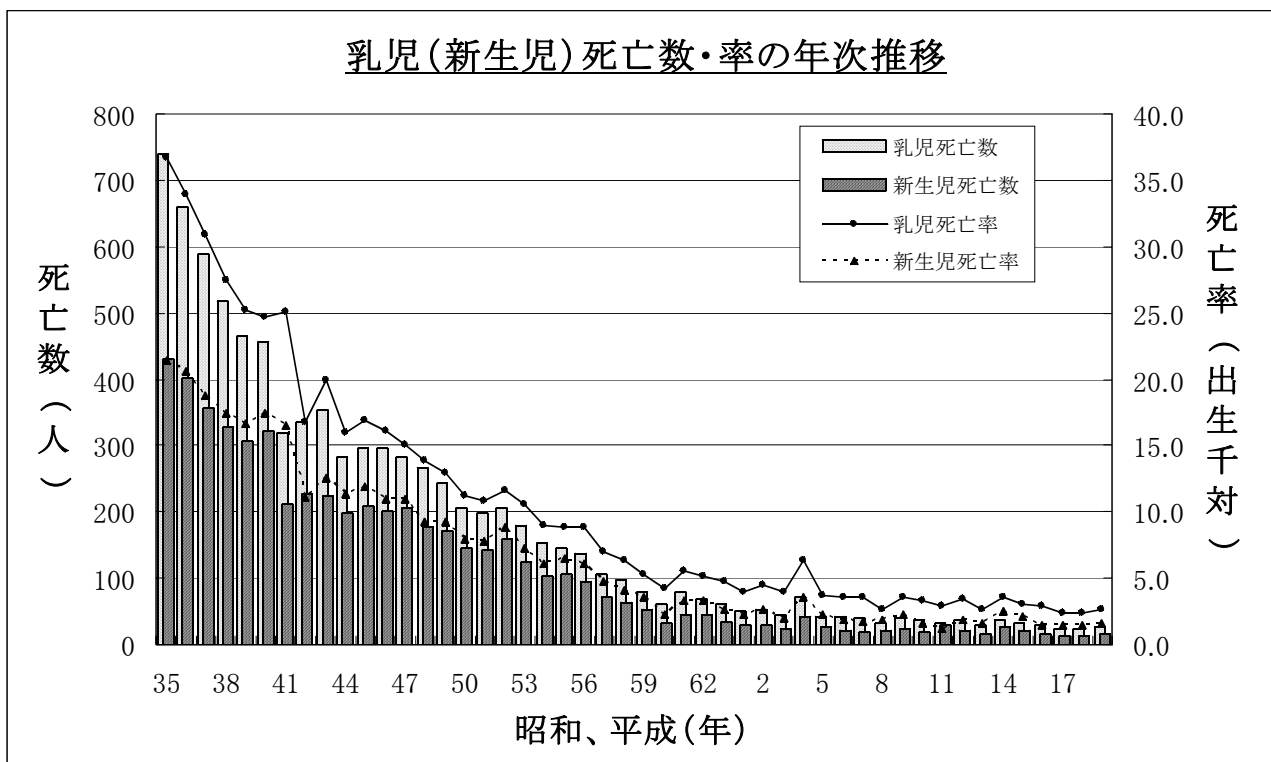
生後1年未満の死亡である乳児死亡数は、27人で前年より3人増加した。

乳児死亡率（出生千対）は、2.7で前年の2.4より増加した。その年次推移をみると、昭和60年までは急激に低下し、その後は、上昇と下降を繰り返しながら、平成5年以降ほぼ横ばいに推移している。

6 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は、16人で前年より2人増加した。

新生児死亡率（出生千対）は、1.6で前年の1.4より増加した。その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。

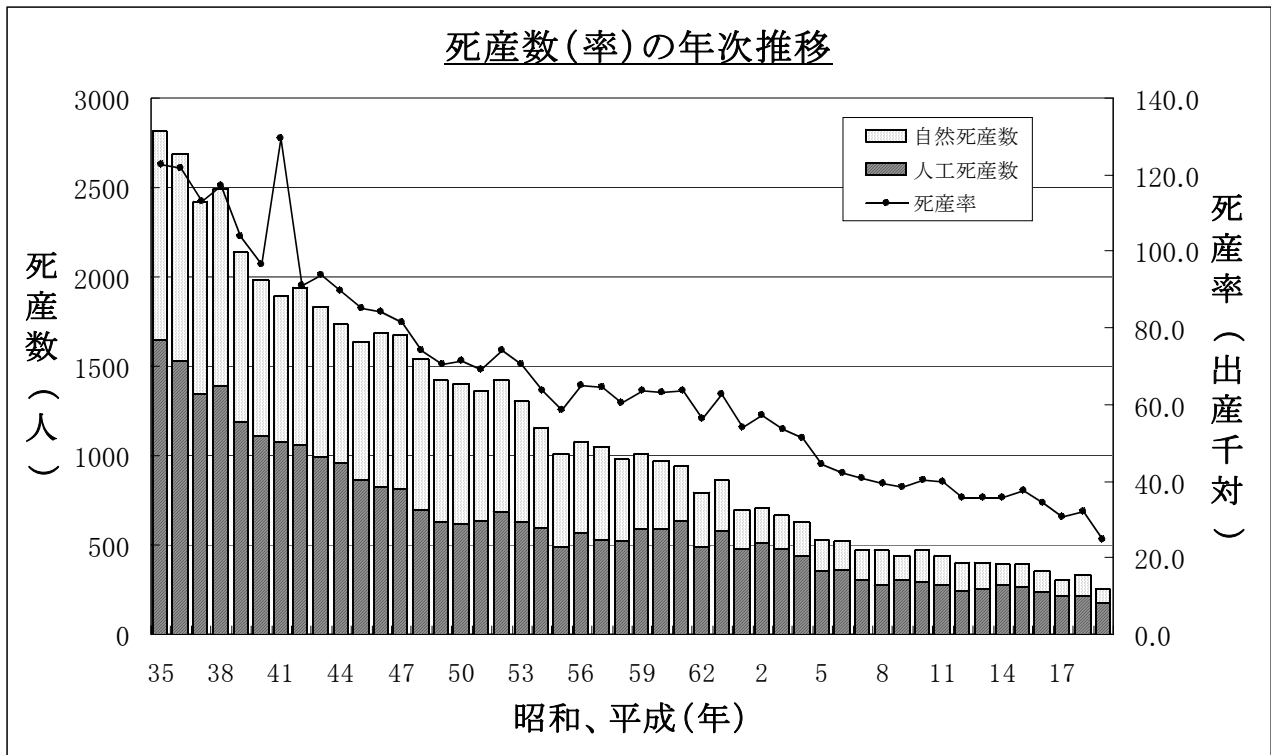


7 死産

死産数は、257胎で前年より80胎減少した。

その内訳は、自然死産84胎、人工死産が173胎となっている。

死産率（出産千対）は、24.7で前年の32.1より減少した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

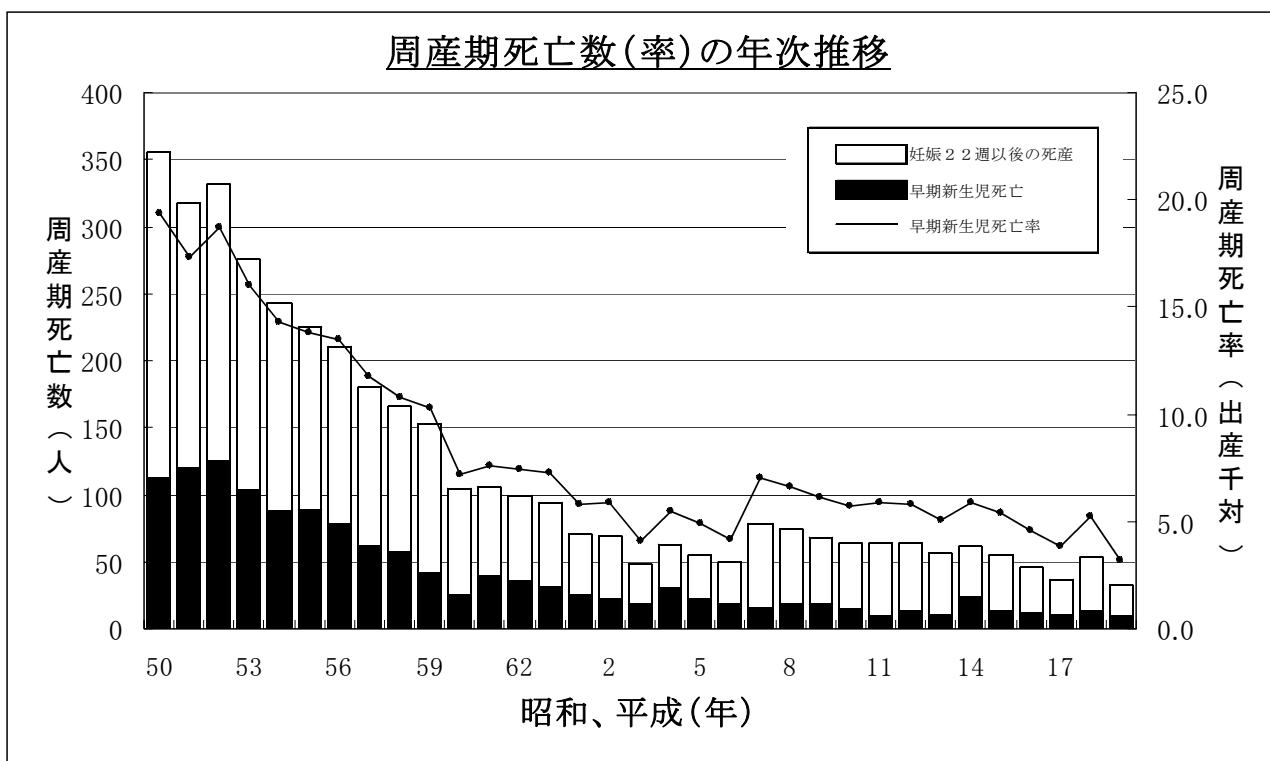


8 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産に、生後1週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、33（胎・人）で前年より20（胎・人）減少した。

その内訳は、妊娠満22週以後の死産が24胎、生後1週未満の早期新生児死亡が9人となっている。

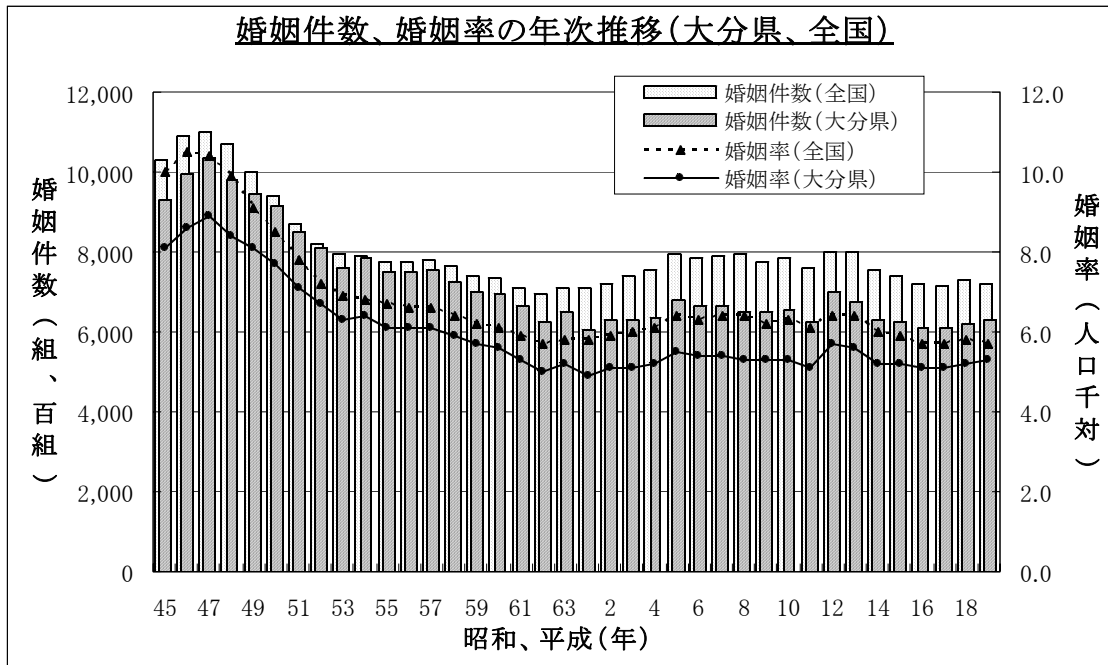
周産期死亡率（出産千対）は、3.2で前年の5.2より減少した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



9 婚 姻

婚姻件数は、6,311組で、前年より110組増加した。

婚姻率（人口千対）は、5.3で前年の5.2より増加した。その年次推移をみると、昭和48年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。



なお、平均初婚年齢は、夫29.4歳、妻28.0歳であった。

夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成13年以降上昇傾向にある。妻については、ゆるやかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

	夫		妻	
	大分県	全 国	大分県	全 国
平成 3	28.2	28.4	26.0	25.9
4	28.2	28.4	26.0	26.0
5	28.2	28.4	26.1	26.1
6	28.2	28.5	26.1	26.2
7	28.2	28.5	26.2	26.3
8	28.2	28.5	26.3	26.4
9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3

10 離婚

離婚件数は、2,412組で前年より66組減少した。

離婚率（人口千対）は、2.02で前年の2.07より減少した。

